

---

# ガラス玉に思ふ

風亜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガラス玉に思ふ

### 【Nコード】

N0882N

### 【作者名】

風亜

### 【あらすじ】

両親に捨てられた少女葵と、隣室に住んでいる、ちよつと変わった女の子、なつちゃんの物語。ある年の夏の、胸がキュンと切なくなる短編。

子供の頃 住んでいたアパートの 隣の部屋には、  
なっちゃんという 女の人が住んでいた。

？ なっちゃんは、無口で意地っ張り  
だけど、なっちゃんは、寂しがり屋で甘えん坊。？

同じアパートに住んでいる人達は皆、  
なっちゃんの事を「怖いね。」とか、「親の顔が見たいね。」とか、  
「一日中、家に閉じこもって何してるんだろうね。」とか、  
「不気味だよな。」なんて言うけれど、本当は違うの。

なっちゃんには、家から出られない理由<sup>わけ</sup>があるんだよ。

なっちゃんはね、目が見えないの。

だから、アパートの急な階段は嫌なんだって。

もし、降りている途中に足を踏み外しちゃったら、

そこからどこまでも落っこちちゃいそうで、怖いんだって。

何かに足を引っ張られて、

真っ暗な闇の中に引きずり込まれちゃうんだって。

「支えてくれる人がいたら良いのにね。」って私が言うと、

「そうだね。」って小さな声で答えて、困ったように笑うの。

コンピューターを目の前にして、

キーボードを物凄い速さでカタカタと打ち込みながら、

なっちゃんは笑顔を見せてくれるの。

いつの時か、「何してるの？」って聞いたら、

「ん？ これはね、遊びだよ。」

この機械をね、こうやってカチャカチャ弄ってね、遊んでるんだよ。」

そう答えてくれたけど、それ、嘘だったよね。

だって、遊びなら真顔ではしないし、

集中して、それこそ、息を止めてまでする事じゃないもんね。

画面には、よく分からない文字がびっしりと書き込まれていて、

私には、それが何だか分からないけど、

何か凄い事してるんだろうな、って事だけは分かるの。

だけど、それを皆に知らせないのは何故？

だって、悪い事じゃなくて良い事してるのに、

それも、とっても凄い事してるのに、秘密にしたいから？

皆をあとと驚かせたいから？

……ううん、違うよ。

なっちゃんはね、本質的な所で人を拒絶しているの。

人だけじゃない、この世界を構成しているものも一切、拒絶してる。

時々、なっちゃんの横顔を見ると、無性に、抱きしめたくなくなるの。

抱きしめて、守ってあげたくなるの。

そうしないと、なっちゃんが壊れちゃいそうで、

例えば、フツと一瞬だけ目を閉じて、次の瞬間には、

次に目を開けた時には、目の前からいなくなっちゃいそうで、怖い  
の。

怖くて、悲しくて、凄く、寂しいの。

だから今日も、なっちゃんの部屋に遊びに行くの。

私のお父さんとお母さんはね、そんな私を最初は咎めていたけど、

今はもう、何も言わない。  
そう、何も言わない。

なっちゃんは今日も、  
キーボードを物凄い速さでカタカタと打ち込みながら、  
私がインターホンを鳴らすと、  
「入って。」と鈴の音みたいな声が聞こえてきて、  
小さく笑って迎え入れてくれるの。

あ、今日は、黄色のタンクトップを着てるんだ。  
何だか、なっちゃんのイメージとは正反対な気がする。  
だけど、凄く可愛いな。

ちよっぴり青の色素が混じった、内側にカールしている黒毛も、  
不健康なくらい、真っ直ぐな白さを保ち続ける肌も、  
パッチリとした大きな瞳も、形の良い耳も、口元に浮かんだ微笑み  
も、

全部がなっちゃんだ。

ああ、今日もいつも通りだ。  
なっちゃんは、今にも泡に変身して、  
パチンと弾<sup>はじ</sup>けてしまいそう。

危険な綱渡りは、今日も続く。  
なっちゃんの笑顔は、綺麗なのに、痛々しくて、儚い。  
扇風機は、ブーンと機械的な音を立てながら、  
一定のリズムで左右に首を振っている。  
テレビは、長い間使われていないからか、  
画面にも外郭にも、埃が薄く被っている。  
太陽の光は、時折、窓を通して射し込んでくるけれど、  
この部屋は、いつも薄い闇に包まれてる。  
電気は無い、あるけど、なっちゃんに使わない。

本棚には、難しそうな本が、いつも同じように、まちまちに置かれている。

倒れている本もあれば、立っている本もある。

だけど、私には読めない字ばかりで、つままない。

なのに、何故か、毎日、足しげく通っている。

なっちゃんは、あんまり喋らない。

ひたすら、よく分からない文字を打ち込んでいるだけ。

時折、飼っているカナリアが、ピッと小さく高く鳴くの。

その声は、狭い部屋によく響いて、でも、一瞬のうちに、フツと消えちゃうの。

微かに残る余韻を味わおうとするけれど、

そうすると、ギュツと胸が締めつけられて、

切なくて、苦しいの。

それでも、なっちゃんと一緒にいる時間が嫌いじゃないのは、たぶん、今から言葉にするのが正しいかは分からないけれど、素直に思うのは、なっちゃんの傍にいとホツとする、って事。

沈黙が、ゆつくりと部屋を覆っていく。

重苦しくない、包み込むような優しい沈黙。

だからね、葵は今、とっても幸せなの。

なっちゃんはね、いつも、「消えてしまいたい。」なんて思ってるけど、

その心は、悲しくなるくらい、強い。

いつ消えてしまっても、世界は変わりなく廻り続けるのに、

そんな事を物ともしないなっちゃんは、

凄く、強いと思う。

だけど、強い人ほど、弱くて脆いんだ。

だから、アパートの人達は皆、嫌ったり遠ざけたりしているけれど、葵の目には、気高く美しく映るんだ。

なっちゃんが何をしようとしているのか、そんな難しい事、葵には分らない。

だけど、これだけは分かるの。

葵はなっちゃんの事、ずっと応援していたい。

たとえ、世界がなっちゃんを見放して、

どこかに棄ててしまったとしても、

私は、なっちゃんの事が好きだから。

無機質な瞳に僅かな光を湛えて生きているなっちゃんを、

私はいつまでも覚えてる。

忘れない。

ずっと、いつまでも、私はあなたにエールを送り続けるよ。

今、この世界に、あなたはいない。

なっちゃんは、永い眠りに入ったの。

いつ目覚めるかは分らない。

だけど、またいつか、目を覚ましてくれるって信じてる。

だから、それまで、なっちゃんが遺してくれたプレゼント、

大切にするね。

なっちゃんは私のために、3・Dの中で楽園を作ってくれてたんだ。

ある日、私がいつものように入ってみると、

なっちゃんは静かに眠っていた。

揺すってみただけど、起きなかった。

寝顔は、何かを終えた達成感に満ちていて、安らかだった。

なっちゃんが創った楽園には、

甘いアイスクリームがあって、香ばしくて美味しいチキンがあって、

ふわふわのベッドがあって、

葵の好きな絵本も本棚にぎっしりと収められていて、

森の中には綺麗なお花があって、

美しい小鳥も木々の間に沢山棲みついていて、

優しくて面白い人が、街には沢山住んでいる。

パン屋さんも、魚屋さんも、八百屋さんも、

CD屋さんも、本屋さんも、どんな店も揃ってる。

満たされた世界、全ての祝福を受け入れた世界。

だけど、そこには、なっちゃんはいない。

駄目だよ、なっちゃん。

なっちゃんの居場所は、なっちゃんの世界にあるんだよ。

私はいつまでも待ってるよ、ずっと、この部屋で。

だから、早く戻ってきて。



（後書き）

コンピューターという機械が登場する点では、少々現実的ですが、それ以外の構成や全体的な展開は、なるべく童話に近い形にしたつもりです。

3-Dという超現実的な単語が登場する童話は嫌だ！

……という苦情は一切受け付けておりません。（笑）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0882n/>

---

ガラス玉に思ふ

2010年10月21日21時20分発行